



私の体験談



本日は〇〇さんにお話を伺いました。主治医との関係、お薬を味方につけるには・・・素晴らしいゆっこさんの実体験をご覧ください！！

W) こんにちは。ゆっこさんは先生に薬についてしっかりと話し合いをしながら処方してもらっているとのことですが、今回はそういったゆっこさんの診察での様子や、薬についてどのように考えているかをお聞きできたらと思います。

Y) よろしく申し上げます。私は今では薬をきちんと飲むようになりましたが、以前は前向きに服薬できていなかったし、現に飲まなかったこともあります。

私は数年前にひどい眼瞼痙攣を経験した事がありまして、目を開けようとすると意識とは反対に閉じてしまうし、光が眩しすぎて目が開けられないといった苦勞が数ヶ月続いたことがありました。別の病院で初めに処方された薬を飲んでみて一回は改善したものの、2回目に服用したときに効果がなかったため、それですぐに服用をやめてしまいました。

当時は友達などから「化学物質は体に良くない」と言われることもあったし、薬に対して良いイメージを持っていなかった。

今年の2月にうつ病とチックでともクリを受診したら、前回出された薬と同じ薬を処方するとのこと、自分ではその薬は効果が出ないと感じていたため、先生にはその薬は嫌なことを伝えました。すると先生は了承してくれ、別の薬を処方してくれました。

それでも初めは効いていたものの、だんだんと効果が薄れてしまって、しだいに症状がより強く出るようになってしまい、ご飯を食べようとしても目が閉じてしまったり、意に反して口が開いてしまうようになりました。

私はそれが薬の副作用のせいでジストニアが起きているんじゃないかと思っていて、

主治医は今の処方ではジストニア（副作用）が出ることは考えにくいと言われましたが、自分はそれが信じられなくて。意見は合いませんでしたが、症状の辛さもあって主治医の言われるがままにはなれず、自分の意見を伝えました。

主治医もしっかりと聞いてくれて、色々調べて下さったり、試しに副作用どめの薬を処方してくれました。実際にその薬を飲んだからといって症状は変わらなかったため、薬の服用をしたくないと先生に相談しました。断薬を2週間してみたら、以前と同じ症状がより強く出現するようになり、かなり苦しめられました。➔

そんなことがあった事がきっかけとなり、先生と現在の症状と薬についてより具体的に相談し、薬について改めて細く説明を聞いたり、これからの治療の方向性を一緒に考えることができました。

W) もし先生が絶対に副作用ということはないと言って聞き入れてくれなかったらどうでしたか？

Y) 信じられなくなったと思います。もっと他に自分を助けてくれる先生を見つけなきゃと探していたと。

W) 実際に断薬をしてみて「自分が試してみる」という行為がとれたことは大きいことでしたね。

Y) そうなんです。自分は絶対副作用によるものだと思っていたから、実際に試してみて「違っていたのか」というステップを自分の足で踏めたのは大きかったです。より先生と話をしようと思えましたし。言われるがまま納得しないままに治療を進めるって、とってもしんどいです。

W) もしかしたら患者さんの中には、そうやって先生とは反対の意見を言うことにとっても抵抗感があって言いづらいって思っている人もいます。反対だとしても意見が言えるのは凄いですね。診察を受ける上で気をつけていることは何ですか？

Y) 言いたいことを言おうと思っています。不安を感じていることは些細なことでも言うように。今まで私は診察の時に気持ちのことは喋っても、体の症状については「何か変なんですよね・・・」って言うぐらいで、しっかりと言葉にしてこなかった。でも、今はたとえアホな人だと思われるかな？と思いつつも、少しでも気になったり不安に思うことは、言葉にして伝えなければと思えるようになりました。

W) 何かそうすることで変わったことはありますか。

Y) 自分は何を治したいと思っているのか、何に困っているのかより明確になったように感じます。実は以前は処方された薬をきっちり飲まない ➔